



## 海に生きる

凍りつくような風が ほおにつき刺さり  
へさきにくだける波しぶきが ふりかかる  
漁場へ急ぐ 期待と不安の交錯した時間  
わたしは七十歳 四十年さかなを釣ってきた

ロープが鳴って エンジンがせきこみ  
きばをむく波がしらに かもめが飛び

鉛色の空から また 雨が落ちてきた  
きょうの漁は どんなもんだらう

近ごろは海もよこれ さかなも減った  
若者は陸へ上がって バイクで工場に通う

しかし わたしは海を見捨てはしない  
ひたいにきざんだしわが はだにしみた潮の  
においが そんな不実を許しはしない  
海は男のいのち すべてのももの母  
ことしも 来年も わたしは漁にでる  
そこに海があり さかなが住むかぎり

# 県だより

47年1月

No. 164

静岡県広報紙

静岡県庁

〒420 静岡市追手町9番6号・電話(0542)512233





県立森林公園は2ヵ所新設を構想

## 社会開発へ52パーセント

### 総事業費 三兆七千億円

第八次計画の事業費は三兆七千億円と見込まれていますが、人間尊重、計画だけあって、社会開発部門にその五二・一パーセント、九千九百億円で、民間からあてられる予定です。第七次計画では三十四億でしたが、大きく前進したことがわかります。交通通信エネルギー、基礎整備は三三・一パーセント、産業振興は一四・四パーセントと見込まれています。また、この財源は、国が九千億、県が七千億、市町村が六千億、公社が六千六百億、民間が八千三百億と見込まれています。この計画は、四十七年度から算定され、事業が進展するにつれて、事業費が追加される見込みです。この計画の推進は、県が中心になって進めていくこと、市町村に任せ、民間に任せ、社会開発部門にその五二・一パーセントをあてられる予定です。第七次計画では三十四億でしたが、大きく前進したことがわかります。県民ひとりひとりが、自分の住んでいる地域を明るく豊かにするために、その地域に住んでいること、その構成員のひとりであること、これをよく考えて、この社会開発計画が達成できるように努力することが望まれています。

## し尿は完全衛生処理

### ごみ焼却施設も整備

衛生的で住みよい生活をおくるための計画を進めています。し尿は、県下で出ているし尿の八四・四パーセントは市町村の施設で処理され、水処理場から下水道へ流したり、家庭の浄化槽で処理されるなど、衛生的に処理されています。しかし、残りの一六・六パーセントは、土の中に埋めたり、非衛生的な処理が行なわれています。この計画では、市町村の下水道の整備（人口中地区は八〇から七五パーセント）地域処理施設（団地など）の整備などによる水処理施設の増加が、市町村の処理施設の整備が進む一〇〇パーセントの衛生的に処理される見込みです。

## 第八次総合開発計画

### 人間尊重を中心

#### 第一次原案まとまる

昭和五十五年を目標年とする第八次静岡県総合開発計画の第一次原案がまとまり、十二月十四日に開かれた県総合開発審議会に提案されました。この第一次原案は、さらに検討が加えられ、三月中旬に予定されている審議会で正式に決定されます。そこで、今日はこの第一次原案のなかで、とくに生活に關係の深いものについて、紹介してみます。

## 脚光あびる自然保護

### 県下の水質を「嚴重監視」

美しい自然をまもることや、緑化をさらにすすめることは、この計画のおもなねらいのひとつです。観光開発や宅地開発などで自然環境が破壊されています。一方、開発が進むにつれて、緑がだんだん失われ問題になっています。このため、つぎのような計画がもたらされました。

- 厳正保護地区を公有地に**  
富士山ろくや伊豆半島などの国立公園のなかで、その景観や、自然を乱開発からまもるうえで、とくに必要ない地区をえらび、国や県が買い上げて自然をまもろうというもので、これは、新しくはじめる特色のある事業です。
- 都市を緑化で「浄化」**  
新しく都市を環境保全林をつくる計画もあります。市街地の空気は、しだいによくなっていきます。そこで県下の全道の市町村を対象に市街地のまわりの森林を整備し、大気の浄化や心のやすらぎなどに役立つよう、整備、全部所に開放し、県民に開放、きれいな空気のなかで、緑のレジャーを楽しんでもらおうというものです。
- 都市を緑化で「浄化」**  
新しく都市を環境保全林をつくる計画もあります。市街地の空気は、しだいによくなっていきます。そこで県下の全道の市町村を対象に市街地のまわりの森林を整備し、大気の浄化や心のやすらぎなどに役立つよう、整備、全部所に開放し、県民に開放、きれいな空気のなかで、緑のレジャーを楽しんでもらおうというものです。



## ちびっ子広場などふえる

### 精薄児施設も充実

心身ともに健全な子どもを育てるための計画もたてられています。健康なあそび場、つくりが進められ、児童遊園や、ちびっ子広場、をふやす計画です。児童遊園は、いまの二百三十を五十五年には四百五十に、また、ちびっ子広場は千七百を二千二百にふやします。

## 豊かな老後のために

### 全市町村に老人福祉施設

県民の福祉を向上することを目指して、高齢者の福祉対策はとくに重要になってきます。そこで、この計画で、①豊かな老後生活の確保、②老人の生きがい対策



## ふやす「青年の家」

### 自然を生かした人づくり施設

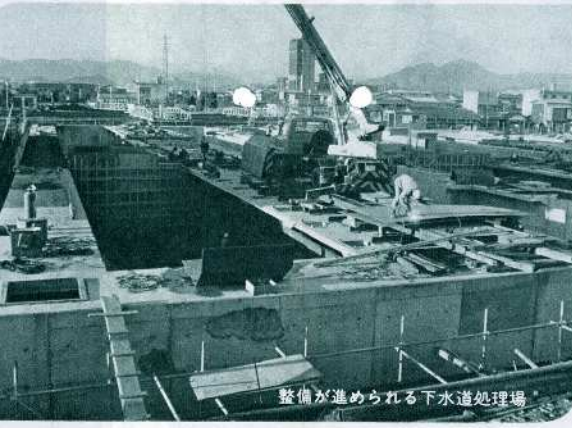
次の世代をなう青少年の健全な育成はたいせつです。そこで、こんどの計画でも、青少年をのびのびと育てるための環境づくりなどに、とくに力を入れることに

ン出されていますが五十五年には二倍の五千トンに達するものと見込まれます。五千トンといえは大型のごみ清掃車で千六百台以上にもなる膨大な量です。このごみを処理するため市町村では単独や共同で焼却施設の増設、改造をすすめて、五十五年にはほぼ完全に処理することを目指しています。

一方、冷蔵庫、テレビ、ガラスなど焼けないごみは、いくつかの市町村が共同で、粗大ごみ・不燃性ごみ処理場、十一カ所をつくり、圧縮・粉砕・埋立てなどを進める計画です。

わたしたちの生活と道路のむすびつきはたいへん密接です。このため、八次計画でも道路の整備には力を入れ、①自動車の増加に見合った整備、②農山村での整備、③安全施設や崩壊危険地区の整備、④おもしろい目標をおもな目標にしています。ところで、昨年四月現在の道路の舗装率は、国、県道あわせて六六・六パーセントでしたが、これを引き上げることにしています。

一方、おもしろい市町村道の舗装率二七・七パーセントは、計画期間中に八一・八パーセントに引き上げられています。



整備が進められる下水道処理場





